

日本 Men's Health 医学会 ニューズレター【Vol.3 April 2009】



APSSAM Osaka 2009 へのご案内

大阪大学大学院医学系研究科泌尿器科 奥山 明彦

第 5 回アジア太平洋男性更年期学会 (5th Congress of Asia Pacific Society for the Study of Aging Male :APSSAM Osaka 2009) のご案内を申し上げます。

本学会は世界男性更年期学会 (International Society for Study of Aging Male:ISSAM) のアジア太平洋地区での地域総会であり、1999 年 2 月の ISSAM の設立につづき、2001 年のクアラルンプールでの第 1 回より、隔年、台北 (台湾)、チェンマイ (タイ)、バリ島 (インドネシア) にて開催されて来ており、第 5 回は日本 Men's Health 医学会の熊本悦明理事長、堀江重郎事務局長のお力添えにより大阪への誘致が可能となりました。ちなみに 2011 年の第 6 回は釜山 (韓国) での開催が決定しています。

APPSSAM Osaka 2009 (以下本会) は第 4 回日本-アセアン (東南アジア諸国連合) メンズヘルスと加齢学会 (The 4th Japan-ASEAN Men's Health & Aging Conference) および第 9 回日本 Men's Health 医学会との合同開催の形式を取っており、会期の 10 月 15 日 (木) から 18 日 (日) のうち、18 日を日本 Men's Health 医学会に充当させていただく予定です。会場は大阪の都心部に位置する大阪国際会議場およびこれに隣接するリーガロイヤルホテ

ルを予定。2008 年 10 月より地下鉄 (中の島駅: 中の島線) が会場前まで開通しており、ホテルのシャトルバス利用も含め大阪駅より 10 分程度です。

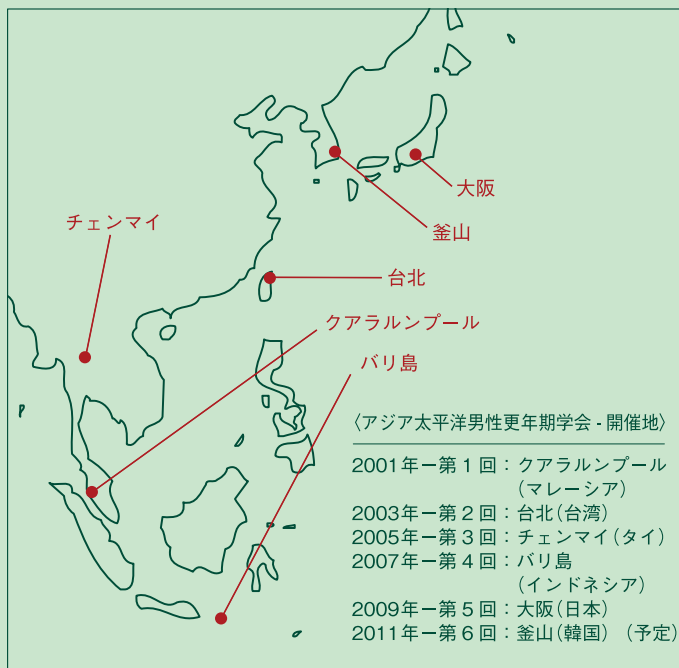
本学会の設立および開催の趣旨は、アジア太平洋地域における中高年男性の疾患予防と生活の質 (QOL) や activity の増進にあることは言うまでも無く、男性更年期に特有とされる、性機能障害 (ED)、うつ症状など精神・心理障害、骨や筋肉などの運動器の障害、糖や脂質の代謝機能低下や肥満の他に、排尿障害や前立腺疾患、循環器障害、メタボリック症候群、抗癌化学療法に加齢に伴う耐性低下や感染症などの諸問題を取り上げ、国内学の研究者の方々に講演をお願いしています。具体的には講演 8 題、シンポジウムおよびサテライトシンポジウム 7 題、ランチョンセミナー 5 件を予定しており、一般演題は口演およびポスターとし、一部の演題はシンポジウムの形を取らせていただきたいと考えています。指定演題の演者および座長として国内外よりそれぞれ 40 名の方々をお願いし、快諾いただいています。この紙面を借りてお礼を申し上げます。

ホームページ (<http://apssam2009.jp/>)による一般演題の受け付けも開始しており、順次、学術企画の詳細もお示しする予定ですが、現時点で具体的にした主要テーマを下記にお示いたします。

「日本、アジア、世界の Men's Health の現状と向上への努力」、「ED、LOH と中枢機能」、「加齢と腫眠」、「テストステロンと糖、脂質代謝」、「ED と LUTS」、「加齢と LUTS/OAB」、「前立腺の役割と前立腺疾患」、「メタボリックシンドローム」、「高齢者に対する抗癌化学療法」、「LOH と漢方療法」、「加齢と感染症」。

企画方針として、時間的に無理が無いタイムコース設定に心掛けるつもりでおります。また、アジア太平洋地域から容易に参加可能な様に、登録料や宿泊、滞在経費等への配慮が、2007年の Executive Council Meeting (バリ島) の席上、日本誘致の条件とされており、世界レベルでの経済状況の悪化も考慮して、Banquet や Dinner、Luncheon Seminar の充実の他に外国人参加者への支援等も必要かと考えています。

開催まで 6 ヶ月余となり、国内外の先生方のご支援により、プログラム作成等も少しずつ進捗し、予定通り先生方をお迎えしたいと考えております。10 月中旬は大阪地方もベストシーズンとなります。本会への参加とともに、大阪や関西の秋をご家族ともどもお楽しみいただければと思っています。



会期 : 平成 21 年 10 月 15 日 (木) ~ 10 月 18 日 (日)

会場 : 大阪国際会議場
〒530-0005 大阪市北区中之島 5-3-51
TEL:06-4803-5555 (代表)
<http://www.gco.co.jp/index.html>

会長 : 奥山 明彦 (大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学 (泌尿器科) 教授)

テーマ : "Think Globally Act Locally on the Men's Health"

学会参加費 : 日本人参加者の方は15,000 円 (APSSAM 参加費・懇親会費を含む)

事務局 : 大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学 (泌尿器科)
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2
TEL:06-6879-3531 FAX : 06-6879-3539
E-mail : apssam2009@uro.med.osaka-u.ac.jp

“汝、未生以前の声を聞け”

日本 Men's Health 医学会
理事長 **熊本悦明**



“汝、未生以前の声を聞け”。“無門関”という臨濟宗の禅僧・無門慧開が纏めた名高い公案集の中に出ている公案の一つである。これを旧制高等学校時代、鎌倉円覚寺に参籠した折に管主朝比奈宗源師から戴き、座禅を組みながら考えあぐねたこ

とが忘れられない。しかも、現在もなお、その答えを見出せないで悩んでいる。

所が、その禅学的瞑想とは離れた分野ではあるが、この設問に最近ある程度答える糸口が医学的に見つかりつつある。母親の胎内にいる間に、“何

か自らに起きていたのか”に思い巡らすことが、医学的には、少しずつ可能になって来ているのである。

男性が、自らの精巣や母親の卵巣・副腎などからの分泌される Androgen による shower により、男の形態や生理を獲得することは、早くから知られている。所がその Androgen shower の強さなどについては、知るすべもなく、神のみぞ知ると信じられていた。だが今や、その Androgen shower の残像が、己の手指の長さの中に、語られているという事になりつつあるのである。

1998 年以来、英国の Manning 教授を中心とするヨーロッパ学派が提唱している、手指の人差し指 (2D) と薬指 (4D) の比、2D/4D 比 (主として右手の) が、まさにその“未生以前の母体内”での男性創生作業の残像を止めていることがかなり明らかになって来ている。その関連論文を読みながら、自らの手指を目先に揚げて眺めつつ、過ぎし日の円覚寺禅堂での苦しい瞑想の時を、感慨深く思い起こしている近頃である。

このテーマはかなり興味を持たれている医学分野であり、この 10 年間で関連する論文は、すでに 200 にも及ぶとされる程、多くの研究者の関心を集めている。しかもこれからさらに研究的分析が広がっていくのではなからうか？

強い Androgen shower を受けたものほど、2D/4D 比が小さく、人差し指が薬指と比べて短い。そして 2 歳児の 2D/4D 比を調べ、その児達の出生時に採取した羊水中のテストステロン値をチェックした所、両者にかかなり有意の逆相関関係があることが確かめられている。更にその 2D/4D 比は生後の性格テストでの Dominance (優越性) と同様な相関性を示しているとの報告も少なくない。しかも注目すべきは、その 2D/4D 比の問題は、単に男性のみでなく女性においても、かなりはっきり見られる所見であるということである。

女性といえども、母体からそれなりの Androgen shower を受けており、気質その他、様々な影響を受けていることが、明らかにされつつある。やはり女性でも、その 2D/4D 比の中に、生き物としての本質的なものが、ある程度語られているということが、明らかにされてきている。

器官形成時における Homeobox 遺伝子 complex

の Hoxa 及び Hoxd の後半部 No.11 ~ 13 あたりの遺伝子発現に Androgen が関与し、外性器形成、さらには手指・足などの男性化度に、色々な影響を与えていると推定されている。そこには、男女差もあるが、殊に今後は女性側における Androgen shower がどのような内容・程度であるかなどの分析が進むことが期待されている。現在盛んに議論されている所謂男らしさ、女らしさ形成議論にも、大きな示唆を与える分析的研究が、将来はかなり出てくるものと期待される。

それはともかくとして、“Hand-Foot-Genital Syndrome” の発見や、興味あることに 2D/4D 比が精巣や陰茎の大きさとかかなりな相関があるという研究も出てきている。さらに手掌紋も、それらと関連しているなどの論文もあり、そうなる街角の手相師の御宣託もあながち出鱈目な作り話ではなく、生き物・人間の未生の声を翻訳する魔女の言葉の如きものなのかもしれぬ、との思いも強くなって来ている。

その 2D/4D 比の物語が、その大風呂敷をさらに大きく広げ、この 1 月の PANAS 《106 (2):623-628, 2008》には、ケンブリッジの Coates 教授らから注目すべき論文が発表され、社会の話題を集めている。それは、City of London の証券街で働く証券マン達の中で、利益率の高いグループは 2D/4D 比が小さいという報告なのである。その 2D/4D 比の小ささと、仕事上の Adventure spirit や Aggressiveness とが、かなり相関しているということは、人間・生き物とは“未生以前“をかなり重く背負って生きていくものだなとの感を深める知見であると言える。何れにしろ、語れば話は尽きない興味ある研究がこの様に続いている。医学は少しずつ“汝、未生以前の声”を聞き取れる技を身に付けつつあるのであろうか？

その生前の Androgen shower 上に、生後の思春期後に新たな Androgen shower が加わり、より複雑な男性化の問題が発展してくるのであるが、何故か、これからの男性医学発展の経過の中で、この 2D/4D 比の如き生前の医学的問題点が、今後も大きくのしかかってくる様な予感がしてならない。

第8回日本Men's Health医学会報告

東京大学医学部附属病院老年病科講師
第8回日本 Men's Health 医学会事務局長

小川 純人

2008年11月29日、30日の2日間にわたり、第8回日本 Men's Health 医学会を東京大学医学部教育研究棟内の鉄門記念講堂において開催いたしました。

本学会では「男性更年期と生活習慣病」をテーマの一つの柱とし、男性医学の臨床的役割をより一層理解し、専門領域を超えて男性医学の研究、啓発を進展させていくことを目標としました。

本学会では、特別講演2題、シンポジウム3セッション11題、ランチョンセミナー1題、モーニングセミナー1題の講演が行われ、また一般演題では広範な領域から20題が発表され、活発な討論が行われました。

特別講演 1



特別講演1では、門脇孝教授（東京大学）から「メタボリックシンドロームの病態と治療—男性更年期との関連」のタイトルで、メタボリックシンドローム、男性更年期の病態に関する最新の知見から治療の展望に至るまで素晴らしいご講演をいただきました。

特別講演 2



特別講演2では、Farid Saad 教授（Gulf Medical University）より、「Basic research and clinical experience of relationship between

testosterone and sexual medicine」と題して、性腺機能低下、メタボリックシンドロームをはじめとする様々な病態における男性ホルモンの役割について基礎的、臨床的知見をご講演いただきました。

シンポジウムは理事、評議員の方々へのアンケート結果をもとにして「高齢男性と排尿機能」、「日本の男性を考える（医学・文化・社会）」、「男性更年期と生活習慣病」のテーマが取り上げられましたが、どのシンポジウムにおいても非常に活発な

発表と討議がなされ、これらの分野への高い関心が示されました。

ランチョンセミナー、モーニングセミナーでは、それぞれ ED 治療、男性骨粗鬆症の最新トピックスについて Men's Health 向上の観点からご講演をいただき大変盛況となりました。一般演題についても、男性医学に関する予防、疫学、病態、診断、治療など多彩な研究内容が発表され、非常に活発な質疑、討議が行われました。



ご参加いただいた方のご協力により、このように全日程をつつがなく終了することができ、活発な討議や参加者間の交流を通じて、Men's Health 研究、将来展望の一助となったのであれば幸いです。



本学会の開催にあたり、理事、評議員はじめ会員の方々のご指導、ご支援、ご参加に感謝いたしますとともに、企画についてご尽力いただいた方々、日本 Men's Health 医学会事務局の方々、ご協賛いただきました企業の皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



Testosterone replacement therapy following radical prostatectomy

雑誌：Journal of Sexual Medicine (2009) Epub

大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学（泌尿器科）
辻村 晃、宮川 康、奥山 明彦



辻村 晃 PROFILE

大阪府堺市生まれ。1988年兵庫医科大学卒業、大阪大学医学部泌尿器科学教室に入局。2年間の研修後、1990年より独立行政法人国立病院機構大阪医療センター泌尿器科に勤務。1997年大阪大学医学部泌尿器科助手、米国ニューヨーク大学への留学後、2005年大阪大学医学部泌尿器科講師。

抄録

背景と目的：前立腺全摘除術後でのテストステロン補充療法については、未だ議論されている。多くの臨床医は、増加したアンドロゲンが残存腫瘍を

行させたり、再発させたりするのではないかと考え、前立腺全摘除術後の患者にテストステロン補充療法を行うことを躊躇しているのが現状である。最近、少数例における前立腺全摘除術後でのテストステロン

補充療法使用経験で、PSA の上昇をきたすことなく、血清テストステロン値の改善が報告されている。これらを踏まえて、本研究は、前立腺全摘除術後の性腺機能低下症患者に対するテストステロン補充療法における PSA 値、テストステロン値の推移を評価することを目的とした。

対象と方法：前立腺全摘除術後にテストステロン補充療法を行った性腺機能低下症患者を後ろ向きに再検討した。病理学的に外科的断端陰性で、PSA が感度以下の患者のみに、テストステロン補充療法が行われ、これらの患者を対象とした。評価項目は、前立腺全摘除術前後とテストステロン補充療法後の PSA 値、およびテストステロン補充療法前後でのテストステロン値とした。

結果：53 歳から 83 歳（平均 64 歳）の合計 57 人において、前立腺全摘除術後のテストステロン補充療法が行われていた。前立腺全摘除術後、平均 36 ヶ月（1-136 ヶ月）でテストステロン補充療法が導入されており、導入後は平均 13 ヶ月（1-99 ヶ月）経過観察されていた。テストステロン補充療法前でのテストステロン平均値は 255ng/dL で、療法後は 459ng/dL ($P < 0.001$)であった。また、テストステロン補充療法開始後に PSA 値の上昇をきたした患者（PSA 再発患者）はなかった。

結論：前立腺全摘除術後の性腺機能低下症患者に対するテストステロン補充療法は、PSA 値の上昇をきたすことなくテストステロン値を改善させた。

コメント

FDA では前立腺癌の可能性がある人、あるいは過去にその既往がある人にはテストステロン補充は禁忌としている。本邦における「加齢男性性腺機能低下症候群～LOH 症候群～診療の手引き」でも、前立腺癌患者はテストステロン療法の絶対禁忌とされている。これらのことは一般的な知識として広く知れ渡っているが、それにも関わらず、本論文のような研究が報告される背景には欧米でのテストステロン療法に対する関心度、期待度の高さが挙げられよう。アメリカ、アンドロゲン欠乏と診断される新患者は、毎年 481,000 人と報告されている。実際、欧米では前立腺全摘除術後の患者であっても、性機能を含めた様々な身体症状の改善を目指したテストステロン療法を希望する患者が少なからず存在する。テストステロン補充と前立腺の関係では、前立腺生検で high

grade prostatic intraepithelial neoplasia (HGPIN) と診断された患者であっても、その後 1 年間のテストステロン補充において PSA の上昇は認めなかったとする報告 1 や、前立腺癌に対する放射線治療 (brachytherapy) 後、平均 5 年経過後に開始したテストステロン補充療法で、癌の再発、進行をきたした症例はなかったとする報告 2 があった。さらに、Agarwal and Oefelein³ が 10 名の患者に、Kaufman and Graydon⁴ が 7 名の患者に前立腺全摘除術後のテストステロン療法を施行し、療法前後で PSA 値は感度以下のまま、変化がなかったと報告していた。本論文は 57 名と最も多くの患者を対象とした研究であり、対象は断端陰性、リンパ節転移のなかった T2 までの症例で、PSA は 0.1ng/dL 未満の患者に限定している。結果はこれまでと同様でテストステロン療法は PSA 値に変動を与えなかった。これらの結果は前立腺全摘除術後におけるテストステロン療法の安全性を支持するものであるが、本研究の経過観察期間は 13 ヶ月、先行した 2 研究もそれぞれ 19 ヶ月、24 ヶ月と比較的短く、長期的な成績なくして、安全性を結論づけることはできない。なお、著者らは、さらに症例数を増やし、長期間経過観察した研究を現在行っていると記載があり、近い将来さらなる知見が報告されるであろう。

なお、日本では、前立腺全摘除術後におけるテストステロン療法を支持するエビデンスは皆無であり、これを容認する社会的、医学的背景も存在しないことを強調しておく。

1. Rhoden EL, Morgentaler A: Testosterone replacement therapy in hypogonadal men at high risk for prostate cancer: results of 1 year of treatment in men with prostatic intraepithelial neoplasia. *J Urol* 2003; 170: 2348.
2. Sarosdy MF: Testosterone replacement for hypogonadism after treatment of early prostate cancer with brachytherapy. *Cancer* 2007; 109: 536.
3. Agarwal PK, Oefelein MG: Testosterone replacement therapy after primary treatment for prostate cancer. *J Urol* 2005; 173: 533.
4. Kaufman JM, Graydon RJ: Androgen replacement after curative radical prostatectomy for prostate cancer in hypogonadal men. *J Urol* 2004; 172: 920.



Sexually dimorphic gastrin releasing peptide system in the spinal cord controls male reproductive functions

雑誌 : Sakamoto H et al.: Nature Neuroscience, 11, 634-636, 2008.

京都府立医科大学大学院
医学研究科泌尿器外科学

邵 仁哲



邵 仁哲 PROFILE

所属 : 京都府立医科大学大学院医学研究科泌尿器機能再生外科学助手

平成 3 年 3 月 京都府立医科大学卒業

平成 3 年 4 月 京都府立医科大学 研修医 (泌尿器科)

平成 5 年 4 月 東京工業大学 助手 (精密工学研究所)

平成 5 年 10 月 京都府立医科大学 修練医 (泌尿器科)

平成 10 年 4 月 京都府立医科大学 助手 (泌尿器科)

平成 15 年 4 月 京都府立医科大学大学院医学研究科泌尿器機能再生外科学 助教

平成 19 年 4 月 京都府立医科大学大学院医学研究科泌尿器外科学助教

所属学会 : 日本性機能学会 (評議員)、日本泌尿器科学会、日本内視鏡外科学会、日本エンドウロロジー・ESWL 学会 (評議員)、日本アンドロロジー学会、日本生殖医学会、日本 Men's Health 医学会、日本小児泌尿器科学会、日本超音波医学会、日本透析学会、日本癌治療学会、世界性機能学会 (ISSM)、アジアパシフィック性機能学会 (APSSM) 現在に至る (平成 21 年 2 月)

抄録: ラットのガストリン放出ペプチド (GRP) は、中枢神経系に広く分布し、摂食行動、概日リズム、搔痒感、情動反応など、多くの生理現象に関与することが知られている。腰髄には、雄性性機能に重要な中継核が存在すると考えられるが、その神経ネットワークについては、未だ不明な点が多い。雄の性機能を司る神経ネットワークの一端を明らかにする目的で、ラット腰髄における GRP および GRP 受容体の発現とそれらの機能解析を行った。結果、血中アンドロゲンが、GRP ニューロンに発

現するアンドロゲンレセプター (AR) を介して GRP の発現を制御していた。また、神経終末から放出された GRP は、GRP 受容体を介して雄性性機能を制御することがわかった。

コメント: GRP 系を介した、雄性性機能を制御する新たな脊髄内局所神経回路を発見したとする論文である。性機能を制御する新たな神経回路メカニズムの解明により、性機能障害に対する新しい治療法の開発が、強く期待できる報告である。



Salivary Sex Hormone Measurement in a National, Population-Based Study of Older Adults.

雑誌 : J Gerontol B Psychol Sci Soc Sci. 2009 Feb 9. [Epub ahead of print]

著者 : Gavrilova N, Lindau ST.

堀江 重郎



堀江 重郎 PROFILE

帝京大学医学部泌尿器科学教室主任教授。医学博士。1960年9月20日生まれ。1985年東京大学医学部医学科を卒業。東京大学医学部付属病院、日本赤十字社武蔵野赤十字病院、米国テキサス大学サウスウェスタンメディカルセンター、都立墨東病院、国立がんセンター中央病院泌尿器科に勤務。1998年東京大学医学部講師、2002年杏林大学医学部助教授を経て、2003年より現職に就任。日本泌尿器科学会指導医。日本腎臓学会指導医。泌尿器腔鏡技術認定医。米国外国医学校卒業生永久資格。日本泌尿器科学会評議員、日本腎臓学会評議員、日本癌学会評議員、日本癌治療学会評議員、日本EE学会評議員、日本抗加齢学会理事、日本性機能学会理事、日本Men's Health医学会理事 など

抄録: Objectives. To describe the methods used for, correlates of cooperation with, and validity of in-home salivary specimens collected from older adults. METHODS: Salivary specimens were collected between 2005 and 2006 during in-home interviews with a probability sample of 3,005 U.S. men and women, ages 57-85 years. Sex hormone levels were assessed by enzyme-linked immunoassay conducted at Salimetrics, LLC (State College, PA). Mean salivary sex hormone concentrations were compared by gender and in relation to medication use and health conditions.

RESULTS: Self-collected saliva specimens were provided by 2,722 (90.6%) individuals; 95.8% of these were adequate for analysis. Black participants were significantly less likely than individuals of other racial/ethnic groups to provide a salivary specimen; age, gender, education, and self-rated health were not associated with participation. Mean testosterone levels were higher in men compared with women, and estradiol levels were higher in women using estrogens. Salivary hormone measurements obtained in the National Social Life, Health, and Aging Project (NSHAP) and other studies are of similar magnitude.

CONCLUSION: NSHAP is the first large, population-based study of

older adults to measure salivary estradiol, progesterone, dehydroepiandrosterone (DHEA), and, in women, testosterone. These data demonstrate a high cooperation rate with in-home salivary specimen collection from older adults and good validity of sex hormone measurements.

コメント: 米国の National Social Life, Health, and Aging Project (NSHAP) によるコホート研究。高齢者の唾液中の性ホルモン濃度を測定した。唾液中のテストステロン値は、formula で求めるフリーテストステロンと近似し、活性のあるテストステロンの評価に適している。インタビューで訪れた 91% が唾液の提供をしていることから、侵襲性が低く、抵抗がないと考えられる。また唾液検体の 97% が解析に適していた。驚いたことに女性のテストステロン値は男性の約 1/2 と意外に高い。加齢女性でもテストステロン値はエストロゲン補充同様重要な可能性がある。

第97回 日本泌尿器科学会総会 **MEN'S HEALTH SEMINAR 2009**

■ 日時：2009年4月16日(木) 17:00～19:00 ■ 会場：岡山コンベンションセンター 405 会議室

“男性医学 事始め” ～男面倒みます 泌尿器科～

■ 講演 1

座長： 東京歯科大学市川総合病院泌尿器科 教授
丸茂 健 先生

『明快 男性医学』

川崎医科大学泌尿器科学教授
永井 敦 先生

■ 講演 2

座長： 東京大学医学系大学院泌尿器外科学 教授
本間 之夫 先生

『“男性力”は、どのように 表現されているか？』

～男の心理と生理を巡って～

日本 Men's Health 医学会 理事長 日本臨床男性医学研究所 所長
熊本 悦明 先生

■ 主催：第97回日本泌尿器科学会総会 ■ 共催企業：

日本 Men's Health 医学会

日本イーライリリー株式会社  Answers That Matter

 日本新薬株式会社

 ANGFA

■ 共催：日本臨床泌尿器科医会

5th Congress of Asia Pacific Society for the Study of Aging Male (APSSAM Osaka 2009)

【会 期】平成 21 年 10 月 15 日 (木) ～ 10 月 18 日 (日)

【会 場】大阪国際会議場 〒530-0005 大阪市北区中之島 5-3-51
TEL:06-4803-5555 (代表) <http://www.gco.co.jp/index.html>

【会 長】奥山 明彦 (大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学 (泌尿器科) 教授)

【テーマ】"Think Globally Act Locally on the Men's Health"

【学会参加費】

日本人参加者の方は 15,000 円 (APSSAM 参加費・懇親会費を含む)
国際会議場「日本 Men's Health 医学会 参加受付」にて参加費をお支払いください。

【事務局】

大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学 (泌尿器科)

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2

TEL:06-6879-3531 FAX: 06-6879-3539 E-mail: apssam2009@uro.med.osaka-u.ac.jp

【運営事務局】

〒102-8481 東京都千代田区麴町 5-1 弘済会館ビル 株式会社コングレ内

TEL:03-5216-5318 FAX: 03-5216-5552 E-mail: apssam2009@congre.co.jp